

## 研修講義コンテンツモデル研修プラン

「ちょっと気になるが出発点～発達障害のある子どもたち～」

「教室の中の気になる子どもたち～発達障害の特性の理解～」を題材に

対象分類：小中学校教員（初心者）

活用形態：校内研修（全体でのビデオ視聴と少人数  
のグループ討議）

講師：校内特別支援教育コーディネーター

### モデル研修プランの概要（目的と対象）

研修講義コンテンツ「ちょっと気になるが出発点～発達障害のある子どもたち～」、「教室の中の気になる子どもたち～発達障害の特性の理解～」は、小中学校等の教員を主な対象に、校内研修会等や自己研修での使用を前提に企画しています。これらの研修講義コンテンツは、担当教師が担当の子どもの学習面や行動面、対人関係でちょっと気になることが、発達障害のある子どもの支援の出発点であることが多いから、教育現場でよく見られるエピソードをとりあげることとしました。そして、多くの教員が教育現場で直面しているエピソード等を職場の同僚と共有・共感し、学校等で多くみられる事実と関連付けて当該障害に関する基礎・基本的な事柄を学ぶことができると考えています。

### 研修講義コンテンツを活用した研修の流れ

研修講義コンテンツを活用した研修の基本パターンとして、最初に「ちょっと気になるが出発点～発達障害のある子どもたち～」を視聴していただき、それをうけて参加者で意見交換を行い、最後に「教室の中の気になる子どもたち～発達障害の特性の理解～」で、障害特性やその教育的対応の配慮点を理解するという構成になっています。

特に、意見交換のプロセスは、各校の職員の実態に応じて、進行役の特別支援教育コーディネーター等が工夫してください。発言しやすい雰囲気と環境を作るために、少人数のグループに分かれて、全ての参加者が自分の体験を話し意見を出し合えることが重要です。次にそれらを共有・共感するための工夫を行うと、より効果的に意見交換が進むと思われます。（KJ法等を採用すると効果的だと思われます。）

### 研修の一例（1時間程度の校内研修を想定）

活動	主な内容	配慮すべき点
導入（5分以内）	全体の流れを説明 グループ分けの発表	各校の実態に応じた グループ分け（まとめ 役含む）を行う

問題提起 (15分)	研修講義コンテンツ視聴 「ちょっと気になるが出発点～発達障害のある子どもたち～」(15分程度)	
問題の共有 (30分) (グループでの意見交換)	グループごとにビデオで紹介された教育現場でよくみられるエピソード等の体験の有無確認から参加者の体験や疑問点意見等の発表と共有	一部の人の意見に偏らないように工夫し、全員が発言できるように  (※KJ法等の活用)
整理 (30分)	各班で出された代表的な疑問点や意見発表 (10分程度)  研修講義コンテンツ視聴「教室の中の気になる子どもたち～発達障害の特性の理解～」(20分程度)  理解したことと課題を整理し、次の研修につなげる。	出された疑問や意見とグループ内で解決不能な課題を明確にする。  理解編のビデオで理解可能なことと今後の課題とすることを整理する。  課題となった点については、参考お勧め図書や関連リンク・情報・研修などにつなげる。

準備物：

- ・ 高速でネットワーク接続された PC (あらかじめ国立特別支援教育総合研究所発達障害教育情報センター (<http://icedd.nise.go.jp/blog/>) にアクセスし、センター内講義コンテンツの視聴確認を行い、再生確認しておくことが望ましい。)
- ・ プロジェクター、スクリーン、スピーカー等
- ・ 講義配布資料 (上記センターで配布する資料 (PDF) を印刷して配布)
- ・ グループ討議を進める際に必要なホワイトボードや記録用紙、付箋紙等

※ 参考 KJ法について

KJ法 (・ほう) とは、文化人類学者川喜田二郎 (東京工業大学名誉教授) がデータをまとめるために考案した手法である。データをカードに記述し、カードをグループごとにまとめて、図解し、論文等にまとめてゆく。KJとは、考案者のイニシャルに因んでいる。共同での作業にもよく用いられ、「創造性開発」(または創造的問題解決) に効果があるとされる。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』